

巻頭エッセイ

紙に囲まれて

一般財団法人民事法律協会監事 余田 武裕

公証人として公証事務に携わっていると、仕事柄、毎日のように高齢者の方と接する機会がある。その際、自分が死んだ後の相続の問題や、自分が認知症になったときの不安などの話をよく耳にする。私も、自分自身の家族関係と照らし合わせ、考えさせられることもある。最近では、自分が死んだ後の葬儀・埋葬、各種契約の解約等の諸手続、遺品整理等のいわゆる死後事務についての話題が気になっている。私が死んだ後、私の遺品整理で家族に迷惑をかけないかが不安になるのである。遺品整理は新聞等でも掲載されることもあり、関心を持たれている大切な問題の一つであると感じている。

数年前父が他界し、暇を見つけては、少しずつ父の遺品整理を行っている。物や紙がたくさんあり、遅々として進まない。整理をしつつ自宅で部屋の中を見渡したとき、私の場合はどうなのか、残された者が困らないかなどと考えると不安になる。

私は書類整理が苦手である。

子どもの頃から、片付けとか、整理とかが苦手で、よく親から叱られたものである。それは、大人になっても変わることはない。私の部屋には、封書、葉書、コピー、チラシ、パンフレットやチケットの半券、写真等の

大量の紙類がある。まさに紙に囲まれた状態である。できるだけ、不要となったときには処分するよう心掛けてはいるが、面倒くさくなり、段ボール箱に突っ込んでいるものも多い。後日、意を決し、段ボール箱を開けてはみるが、品々を眺めていると、思い出の品として愛着がわいてきたり、後で役に立つかという気になったりするものばかりで、結局、ため息をつきながら段ボール箱を閉じてしまい、片付くことはない。

ところで、書類整理をしていると思い出すことがある。私が法務局職員になりたての頃、仕事で難しい問題に当たった時に、明確に、根拠を示しながら答えを教えてくれる先輩に出会った。その先輩は、周りからも頼りにされていた。その後、他の部署に勤務したときも、同じように周りから頼りにされている先輩、上司に出会った。その人は、いわゆる「〇〇の神様」と言われており、私自身、随分お世話になったものである。

彼らに共通していたのは、あらゆる情報がきちんと整理されており、必要な情報が瞬時に取り出されることであった。その整理の仕方を見ても、ノートに手書きして整理している人、参考資料を内容ごとに分類してファイリングしている人など様々であ

るが、どの人も、その資料を上手く使いこなしている。もちろん、それは、彼らの頭の中では、仕事全体が体系的に整理されており、新たな情報に接したときに、それがどの内容に関するものなのかが適切に判断され、分類・蓄積されているからということと言うまでもないことではある。だから、例えば、私が彼らの資料をいただいたとしても、私自身がこれを上手に使いこなすことはできないことはわかっていた。

私も資料は色々集めていたが、使いこなすことはできず、いつかは先輩方のような職員になりたいと思い、情報をどのように整理したらよいか、試行錯誤を繰り返した。整理術の類の本をいくつも買い、読み漁った。情報カードによる管理、ノートによる管理、封筒による管理、内容ごとのファイリングによる管理、特に分類せずに時系列に管理する方法など、色々あった。もちろん、昭和時代のことであり、パソコンなどはなかったので、電子データではなく、すべて紙による情報の整理方法である。いくつかの方法を試してみたが、長続きはせず、なかなか身につけなかった。

その後、30歳になり、そして40歳代になり、年を重ねるごとに、新しい分野の仕事を担当する機会が増え、新たな情報、大量の情報に接するようになった。上司から、直面した課題に対する問題点や過去の経緯の説明を求められたりする機会も多くなり、その際、手元にあったはずの資料が探せず、うまく説明できなくて上司から叱られたことも多々あった。これは私の情報整理の仕方がまずいことが原因であり、適切な情報の整理、分類の重要性、必要性を痛

感した。他方で、多くの尊敬すべき上司、先輩、同僚たちにも出会った。そして、彼らの体系的な整理の仕方、書類の整理の仕方をみて、そのたびに感心し、それを参考にさせていただきながら、自分の能力や性格にあった整理の仕方を模索してきた。

20歳代後半に初めてワープロに触り、30歳代半ばになった頃、パソコンが導入された。これに伴い、情報管理の方法が、書類から電子データに代わってきた。そこで、早速パソコンを活用した情報管理も検討してみたが、なかなかうまくいかない。急には紙から脱却できなかったのである。そうは言っても、情報管理の重要性、必要性は年々高まってくる。先輩方から教わった体系的に情報を整理することは心掛け工夫し、先輩方の手法を参考にさせていただきながら、また多くの職員に助けられていくうちに、次第に、私自身の電子データを活用した整理の仕方も身につけてきたと実感してきた。

5年前に法務局を退職した。40年近く取り組んできた私の書類整理であったが、この退職に伴い、多くの書類やデータを処分し、ようやく解放されたと思っていた。

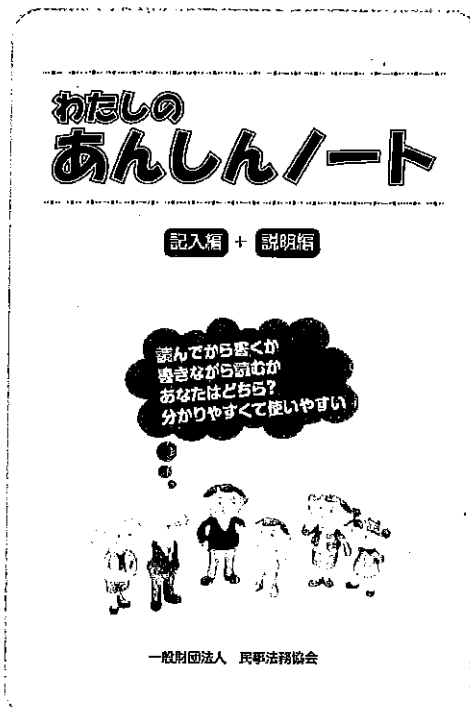
ところが、公証人になり、たくさんの情報が一気に押し寄せてきた。法務局退職時に、ある程度、書類整理術は身につけていたと思っていた。しかし、それは大きな勘違いであったようだ。遺言、離婚、後見、信託、債務承認、事業用定期借地権、定款など、なかなか全体像がつかめない。全体像がつかめないから、法務局で培ってきたような体系的な整理ができないのである。また、仕事に追われ、なかなか思うように

作業ができない。だんだん焦ってきた。仕事にも支障をきたし、書類整理が2回目の喫緊の課題となったのである。日々焦りながらも月日は流れ、事件処理を通じ、少しずつ全体像がつかめてきた。そこで、最近、遅いと思いつつも、情報整理をはじめた。公証人の任を解かれる数年後には、自分自身がある程度納得する形で、2回目の私の書類整理の課題を完結したいと思っている。

そして、次の課題は、家族のために、私の死後事務処理の準備をしておくことである。私の死亡後、できるだけ迷惑をかけないように、家庭内の書類をはじめ、不用品

(趣味で集めた鉄道グッズなどは、私にとっては不用品ではないのであるが。)の処分や整理をやっておかなければならない。

しかし、やはり私は、書類整理が苦手である。面倒でもある。でも、嫌いではないのかもしれない。書類整理や、不用品処分が進んでいくと、モヤモヤしていた頭もスッキリして、気分もリフレッシュしてくる。1回目と2回目の書類整理は、必要に迫られて取り組んできたところではあるが、3回目の書類整理の課題は、楽しく前向きな気分で取り組んでいきたいと思っている。



読んでから書くか 書きながら読むか
あなたはどちら?
分かりやすく使いやすい

わたしのあんしんノート

当協会が作成した「わたしのあんしんノート」と題するエンディングノートです。

これからの人生を安心して生きていただけるようにとの思いを込めて名付けたものであり、あなたのこれからの人生に、是非お役立ていただきたいと考えています。



わたしの希望を記す〈記入編〉42ページ
分かりやすい書き方の〈説明編〉22ページ
サイズA4判 64ページ 定価:815円(税込)(送料実費)